

大人への一歩 20歳の思い

になる。毎日厳しい戦いが続く」と話す。

上富田町出身。神島高校では商品開発プロジェクト「神島屋」に参加し、梅弁当の販売やビジネスコンテストで活躍した。独自レシビを競う「うまいもん甲子園」の敗者復活戦では、SNS（交流サイト）の投票で歴代最多3千票以上を獲得し、全国大会に出場した。

「地元企業と交流できたのは財産。卒業後は県外に出たいと思っていたけれど、『地元かっこいいやん』と思えた」。さまざまな大人と接してきたため、会社にもすぐ溶け込めた。「親世代からは『会社の娘』と呼んでもらえる」と笑う。

「うまいもん甲子園」の敗者復活戦では、いかに得票を稼ぐか、戦略的に企業回りやSNSでの発信を仕掛けた。研究熱心さは仕事でも同じ。「きれいな針ができる到達感がある。いかに早く、正確に設定できるか。まだまだ学びのことだらけ」と目を輝かせる。

「働き出して、地元がますます好きになった。かっこいいと思われる大人になれたらいいな」。階段を着実に駆け上がった。



地元でかっこいい大人に
のへみずき
会社員 延瑞季さん

工業用メリヤス編み針の製造で国内トップシェアの福原ニードル（白浜町堅田）で勤務する。

「いくつもの有名服飾メーカーで、うちの針が使われている。地元にもすごい企業があると自慢したい」と力を込める。

入社2年目。針の表面を削る作業を担当する。約70ある工程の初期の部分。数百種類ある針は、長さも形状も厚みも違う。一つ一つに合うよう機械を設定する。「顕微鏡で見ないと分からないけれど、一つのミスで不良品